

○第1次の学習活動

【ねらい】

河原者と呼ばれた人々に対する差別や差別を受けながらも現代に伝わる優れた技術、文化を残したことについての理解を深める。

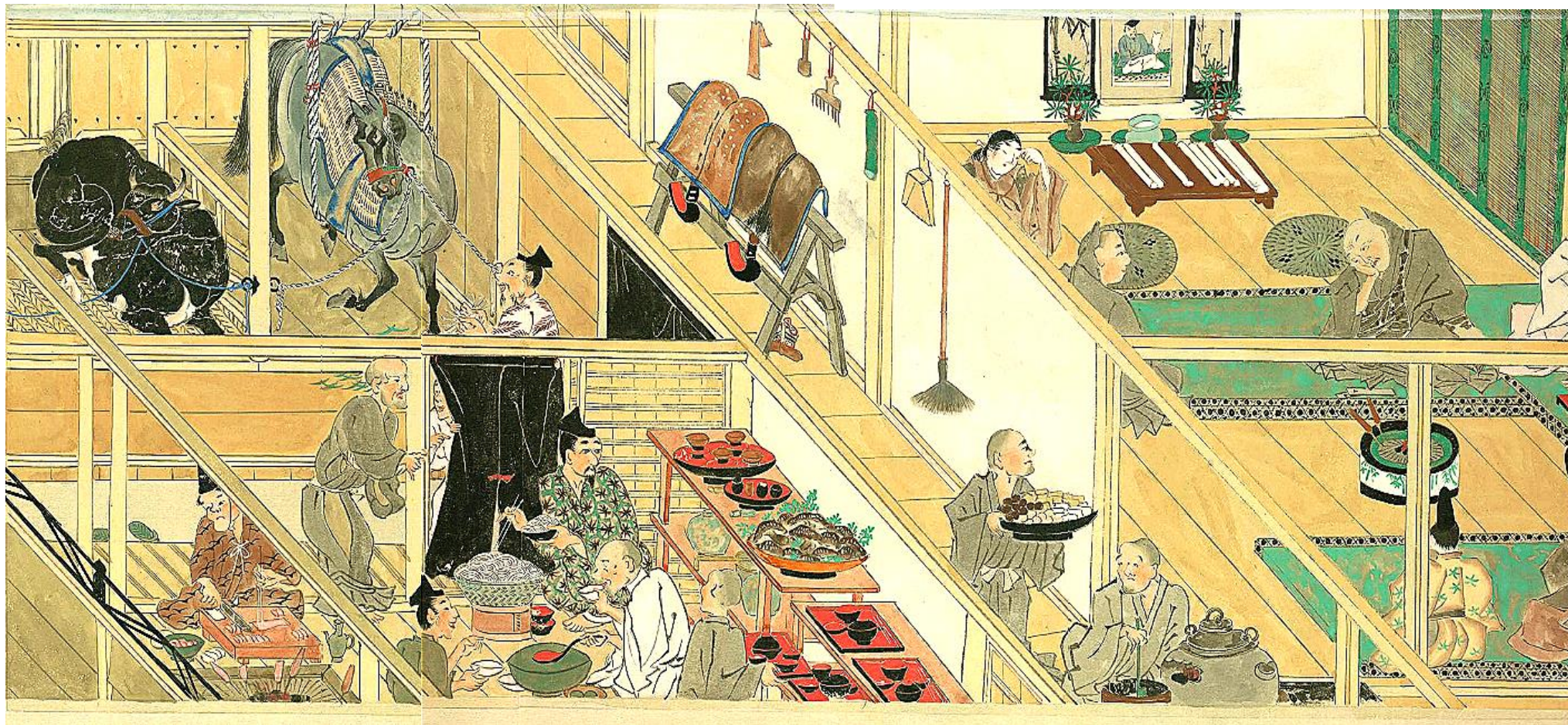
【育てたい資質・能力】

◎知識的側面（同和問題（部落差別）の起こりに関する歴史的な知識）

◎技能的側面（コミュニケーション技能）

【展開（1時間）】

学習活動	●指導上の留意点 ☆人権教育上の配慮 ◎人権教育に視点をあてた評価の規準
<p>①「慕帰絵詞」の日常生活の描写をとおして、当時から今につながる文化や産業があることを全体で共有する。 （文化）立花・生け花、連歌、精進料理、掛け軸の水墨画 （産業）漆塗りの食器→漆塗りの職人・木の椀を作る木地師、竹ぼうき→竹細工、畳→畳職人、馬具→皮革職人、黒・藍色ののれん→藍染</p>	<p>●これまでの歴史学習と関連付け授業を進める。 ●描写されている物から、それを作り出すために必要な産業を想像させる。</p>
<p>②室町時代、河原者と呼ばれた人々がいたこと、河原者が担った職業についての説明を聞く。（資料Ⅰ「河原者が担った職業」）</p>	<p>●河原者と呼ばれた人々が、多様な産業や文化の担い手となっていることに注目させる。</p>
<p>③河原者と呼ばれた人々が差別されていたという事実を知る。（資料Ⅱ「又四郎のつづき」「銀閣（慈照寺）の石庭と又四郎」）</p>	<p>●資料から庭造りの名手である河原者の又四郎が差別されていることに注目させるとともに、なぜ差別されているのか疑問を抱かせる。</p>
<p>④資料から河原者と呼ばれた人々はどのような存在であり、なぜ差別されていたのかを考え、グループで話し合い、まとめる。（資料Ⅲ「差別された人々の活躍」「差別のおこり」「河原者とは」） ・資料を読み、重要と思うところに線を引く。 ・個人でクラゲチャートをつくる。 ・グループで1つのクラゲチャートをつくる。</p>	<p>●自分のグループの考えを深めさせるために、タブレット端末で他グループのクラゲチャートを写真に撮らせ、学びの調整を促す。 ●分からない語句を仲間に聞いたり、調べたりさせる。（タブレット使用） ☆生徒一人一人にじっくりと考える時間とグループで考える時間を確保する。 ◎グループで課題について整理して話し合うことができている。【技能】</p>
<p>④グループでまとめた考えを発表する。</p>	<p>●グループでまとめたクラゲチャートをもとに発表させる。</p>
<p>⑤資料Ⅱ「銀閣（慈照寺）の石庭と又四郎」には続き（資料Ⅳ）があり、「又四郎こそ人間である。」という周麟の言葉から、人の正しい行いをきちんと見て評価する人がいたことを知る。</p>	
<p>⑥振り返りを書く。</p>	<p>◎室町時代の「ケガレ」という人々の考えや、文化、産業の発展における河原者の担った大きな役割について書くことができている。【知識】</p>



## 資料 I

### 河原者が担った職業

- ①都市の<sup>せいそう</sup>清掃、<sup>そうぎ</sup>葬儀などの、町を清める仕事
- ②屋根ふき、<sup>かべ</sup>壁塗り、井戸掘り、石垣づくり、庭造りなどの自然に手を加える<sup>どぼく</sup>土木関係の仕事
- ③<sup>みそ</sup>味噌や<sup>しお</sup>塩などの行商、<sup>ひかく</sup>皮革製造、鳥獣の肉や魚介の販売
- ④<sup>せんしよく</sup>染色、<sup>たけざいく</sup>竹細工、<sup>はきもの</sup>履物づくり、<sup>ぶきう</sup>武具づくりなどの手工業
- ⑤運送、渡し船、<sup>ひきやく</sup>飛脚などの交通関係の仕事
- ⑥<sup>ごえい</sup>護衛、刑罰などの下級役人の仕事
- ⑦<sup>ざるがく</sup>猿楽、<sup>のうがく</sup>能楽、くぐつ（あやつり人形）などの芸能

参考文献「部落史に学ぶ」(外川 正明)

人権学習教員用手引き「湯浅モデル 研究実践集」(湯浅町教育委員会作成)より

## 資料Ⅱ

### 又四郎のつぶやき

河原者の又四郎が夕方やってきた。庭木の手入れをした。懐<sup>ふところ</sup>から1冊の本を出し、「これは、庭に樹を植え、石を並べるとき、どういふ場合が吉<sup>きち</sup>となり凶<sup>きよう</sup>となるか、日取りをどうするかなど書いている本です。最後の一段の文字が読めないので教えてください。」というので、朱墨<sup>しゅぼく</sup>で読み方を書いてやった。(中略) (二人の間でつい話が弾<sup>はず</sup>み)「私はひとえに屠者<sup>としゃ</sup>(河原者)の家筋<sup>いえすじ</sup>に生まれたことを悲しく思っています。ですから動物の命を決して奪<sup>うば</sup>わないようにしています。※1また、財宝<sup>むさぼ</sup>を貪<sup>むさぼ</sup>らないよう心がけています。※2以前、路上<sup>かや</sup>で蚊帳<sup>かや</sup>を4つ、5つ拾いました。※3それを拾い、追いかけて、届けてあげました。今でも、道で会うと、私に感謝してくれます。」

「鹿苑日録」※4

※1 「動物を殺すことが悲しく、自分はそれが嫌だから、今は決して殺さないようにしています。私たちがそんなことを喜んでやるでしょうか。生活のためにやらざるを得なかったのです。今は庭師の仕事で収入を得ることができるようになったので殺さなくてもよくなりました。」という背景がある。

※2 この言葉には「私は物を盗んでいません。」「貪欲などではないです」という訴えがあるとされている。人々の河原者に対する意識が背景にある。

※3 蚊が入ってこないようにする網。誰か車などで運んでいて荷崩れでも起こして落ちたものか。

※4 「鹿苑日録」とは京都相国寺山内鹿苑院の院主が書いた記録である。資料は分かりやすい表現に直している。

人権学習教員用手引き「湯浅モデル 研究実践集」(湯浅町教育委員会作成)より

### 銀閣(慈照寺)の石庭と又四郎

室町時代、庭造りの名人といわれた「善阿弥<sup>ぜんあみ</sup>」という人がいました。8代将軍足利義政も、彼の技術をこよなく愛していました。有名な銀閣などの庭も、彼と彼の子「小四郎」そしてその孫の「又四郎」の三代によって完成されたと言われています。善阿弥の孫、「又四郎」も庭造りの名手であり、その技術は高く認められていました。日頃から自分の技術を高めるために本を読み努力していましたが、自然に手を加える土木関係の仕事をしているということで差別されていました。この時代は、人間の生死や自然にかかわって生活している人が差別されていたのです。

ある日、彼は、相国寺の「周麟<sup>しゅうりん</sup>」という親しいお坊さんに、次のようなことをつぶやきました。「私は、人々から差別される立場にあることを心から悲しいと思う。」

参考文献「部落史に学ぶ」(外川 正明)

人権学習教員用手引き「湯浅モデル実践例」(湯浅町教育委員会作成)より

## 資料Ⅲ

### 差別された人々の活躍

中世の頃（平安時代の終わり頃～室町時代）の人々は、人間の生死や自然の変化など人間の力が及ばないことが怒ることを、大変おそれる気持ちを持っていました。ところが一方で、そうした人間の生死や自然にかかわって生活している人たちもいました。その人たちは、当時何百メートルもあった大きな川の河原に住んで生活をしたり、決まった場所に住まず各地を回って、さまざまな仕事に携わったりして暮らしていました。当時の人は、こうした暮らしをする人々を自分たちのおそれることにかかわることができる不思議な力を持つ人、自分たちとは違う暮らしをする人として見ていました。また、この人たちが住む河原も人間の力の及ばない特別な場所と考えられていました。

そのため、こうした人々は、食事やつきあいなど日常の生活を一緒にしないなど差別されていました。しかし、この頃は、身分が固定されていなかったので土地をもって定住すれば生活を変えることもできました。

参考文献「部落史に学ぶ」(外川 正明)

人権学習教員用手引き「湯浅モデル 研究実践集」(湯浅町教育委員会作成)より

### 差別のおこり

中世には、民衆の間で人の死や血などの通常と異なる事態に関することを「ケガレ」としておそれました。「ケガレ」は、科学的にまったく根拠のない考え方ですが、死や血などに触れると、触れた人もけがれるという意識が形づくられました。そのため、人や動物の死や血に触れる仕事に従事する「河原者」などと呼ばれた人々はけがれた存在であるという考え方が、当時の社会の中に広まっていったといわれています。この考え方が、特定の仕事や役割を担った人々に対する偏見や、差別された身分を生み出すことにもつながりました。

人権学習パンフレット「部落差別の解消に向けて」(和歌山県教育委員会作成)より

### 河原者とは

河原者とは、河原などの課税されない土地に住んでいた人々の呼び名です。まちの清掃や葬儀、亡くなった人の遺体の処理や動物の死骸の片付け、死んだ牛馬の解体、皮革生産、芸能、井戸掘り、自然に手を加える庭造りや土木工事など、さまざまな仕事に従事していました。これらの人々の中には、仕事をとおして死に関わる「ケガレ」を「キヨメ」ることができ、霊力など魔術的な力をもつ者もいると考えられていました。

人権学習パンフレット「部落差別の解消に向けて」(和歌山県教育委員会作成)より

## 資料Ⅳ 銀閣（慈照寺）の石庭と又四郎の続き

### 銀閣（慈照寺）の石庭と又四郎

室町時代、庭造りの名人といわれた「善阿弥<sup>ぜんあみ</sup>」という人がいました。8代将軍足利義政も、彼の技術をこよなく愛していました。有名な銀閣などの庭も、彼と彼の子「小四郎」そしてその孫の「又四郎」の三代によって完成されたと言われています。善阿弥の孫、「又四郎」も庭造りの名手であり、その技術は高く認められていました。日頃から自分の技術を高めるために本を読み努力していましたが、自然に手を加える土木関係の仕事をしているということで差別されていました。この時代は、人間の生死や自然にかかわって生活している人が差別されていたのです。

ある日、彼は、相国寺の「周麟<sup>しゅうりん</sup>」という親しいお坊さんに、次のようなことをつづやきました。「私は、人々から差別される立場にあることを心から悲しいと思う。」

（ここから続き）

「だから私は誓って生きものを殺さないようにしているし、決して物に対する欲ももたないようにしている。」

この言葉を聞いた周麟は、その日の日記に次のように書いています。

「又四郎こそ人間である。」

参考文献「部落史に学ぶ」(外川 正明)

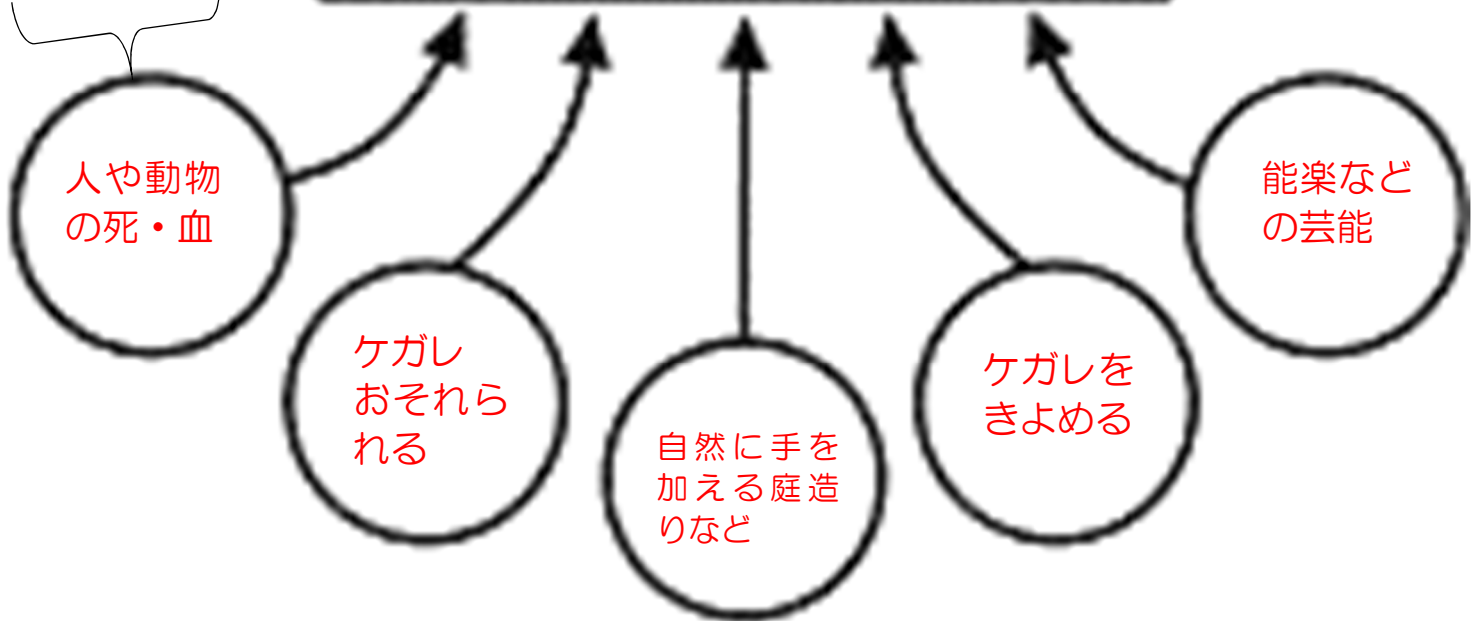
人権学習教員用手引き「湯浅モデル実践例」（湯浅町教育委員会作成）より

多面的・多角的に見て、  
差別された河原者はどんな  
存在だったのか？

## 差別された河原者

- 「ケガレ」ているということで、おそれられ、社会から疎外された
- 社会にとって必要な役割を担った 存在

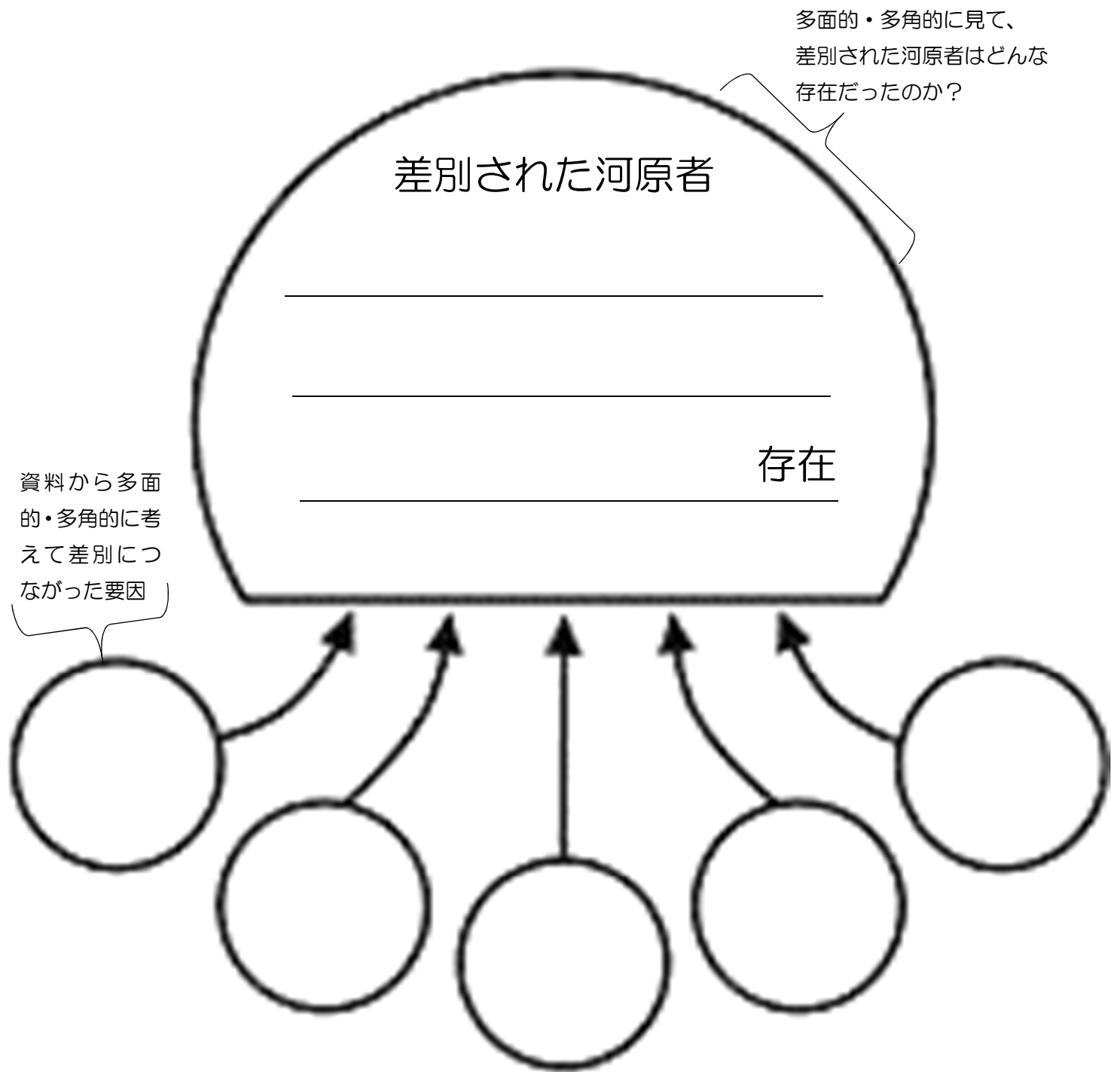
資料から多面的・多角的に考えて差別につながった要因



クラゲチャート (発表用補足説明文)

発表を聞いて (メモ)

クラゲチャート



クラゲチャート（発表用補足説明文）

発表を聞いて（メモ）